

井戸端会議記録

2009.9.9

第1回プログラム

- 1 はじめに
- 2 保健所企画班の宮本さんから市民会議と市との協働関係について問題提起
- 3 お互いの活動についてよく知ろう
- 4 市民会議事務局の運営方式を考えよう
- 5 グループ発表
- 6 まとめ

9月9日(水)の夜、岡崎げんき館市民会議第1回井戸端会議が行われました。当日は、運営委員の方と市の職員、総勢27名の参加がありました。

まず、市民会議の荒井代表のあいさつの中で、今回の井戸端会議を開催する趣旨が説明されました。次に保健所企画班の宮本さんから市民会議と市との協働関係のこれまでのあり方について問題点を整理した上で、4つの点からの問題提起をしてもらいました(2~3頁)。

いつもはそれぞれの部会で話し合うことが多いのですが、今回は一つのテーブルをいろいろな部会の方が囲む形式で話し合いを進めました。最初に自己紹介を兼ねて、それぞれの活動に対する質問やアドバイスなどをざくばらんにメッセージカードに出し合い、メッセージに対してそれぞれの部会からコメントをもらいました(4~6頁)。

次に先の4つの問題提起を受けて、市民会議の事務局体制のあり方についてグループ毎に話し合いました。あらかじめ事務局で用意した3つのタイプをもとに今後の市民会議の自立的な運営を実現するための方法を探ることを目的とした話し合いです(7~9頁)。

グループのまとめを発表して井戸端会議は終了しましたが、最後にそれぞれの方に感想カードを書いてもらいましたので、今後の進め方の参考にさせていただければと思います(9~10頁)。

皆さん、こんばんは。本日は岡崎げんき館市民会議ワークショップにお集まりいただき、ありがとうございます。私たち市民会議もげんき館オープン以来、各部会、各団体においてそれぞれ活動を続け、またそれぞれの事業については、たいへんご好評をいただき進んでまいりました。しかしながら今後の市民会議を考えると、特に事務局の運営体制については不十分な点も多く、保健所を含めて市民会議はもとより、げんき館そのものの将来を見据えてしっかりとした体制作りをしていかなくてはならないと痛感しております。

幸い今回は専門委員の愛知学泉大学伊藤雅春教授にプロデュースをしていただき、これからの市民会議を考えるワークショップ(第1回井戸端会議)開催の運びとなりました。

伊藤先生には細部にわたり御指導いただき、ぜひ皆さんからのご意見をもとにこれからのげんき館を考えていきたいと思っております。どうか活発な意見交換をお願い申し上げます。

市民会議代表
荒井氏



市民会議と市との協働関係について問題提起

保健所企画班の宮本さんから、市民会議と市との協働関係について問題提起をしていただきました。



岡崎げんき館の事業展開

- このげんき館は市で初めてのPFI事業で、民間資金を活用した新しい事業形態である。
- このげんき館には市民会議の皆さんとSPCといわれる民間事業者、岡崎市の三者が事業を展開している。市民会議は、いまや岡崎げんき館になくてはならない存在である。
- この三者による事業は、幅広い事業展開を可能とし、新たな市民サービスを創造することに成功している。
 - ▶▶▶ 例えば
 - ◆げんき館スタジオでは、「ズンバ」といって、ラテンの音楽にあわせて、自由にステップをあわせておどっていくスタイルの事業をしている。
 - ◆市民会議では保健、栄養、健康、運動、市民交流と5つの部会に分かれ、専門性をいかしながら、さまざまな事業を展開していただいている。
 - ◆市も、直営事業を行っている。
- このように、多様化する市民ニーズにこたえるために、さまざまな形態のサービスが供給できることが、岡崎げんき館の強みであると認識している。



岡崎げんき館市民会議

- 岡崎げんき館市民会議は、市民ワークショップとして、スタートした。
- 2004年、市民ワークショップは発展的解散をして市民会議として再スタートを切った。これは、岡崎げんき館がオープン後も、積極的な事業を推進していくということを目的に発展的解散をしたと伺っている。
- 2008年、岡崎げんき館では市民会議事業をスタートさせた。昨年度においては、11事業で、6000人を超える市民の方々に、市民会議事業をご利用いただいた。このように、市民会議は、多くの方にご利用をいただいている。



岡崎げんき館の問題提起① 予算の問題

- 現在、市費でまかなっており、材料費、つまり鉛筆1本から市が購入している。また各部会の事業、人件費等についても市費でまかなっている。
- 各部会間の調整は市の担当者も見るが、非常に調整が難しいところがある。端的に申し上げれば市は、皆さんからいただいた予算案を最大限に尊重しながら、枠内に収めている。そのため、部会間で予算の格差が生じ、調整機能が働いていないという課題があげられる。
- 先日の運営会議で、平成22年度予算について議題を提出させていただいたが、市民会議の運営委員さんもその場で初めて全体の予算を知り、短い時間の中で、全体を把握できないまま議決されていくという課題がある。
- また、議決されたあとにおいて、他の部会の方から、「他の部会のこの部分がおかしい」という意見を頂戴しても、市ではわからず調整が難しいことがある。
- やはり、市が予算を管理すると細部まで調整できないという課題が挙げられる。



岡崎げんき館の問題提起② 収入の問題

- 市民会議の収入はすべて市の収入になるので、いくら市民会議の皆さんが頑張っても、すべて市の収入（公金）になる。公金なので市の職員が出向いていくことになるが、市の職員の都合がつかないなどのご配慮を頂いているケースもある。



岡崎げんき館の問題提起③ マネジメントの問題

- 現在、マネジメントは市が行っている。（げんき館オープン前に協議し決定）
- 市民会議のマネジメントとは「顧客の創造」、つまり市民の欲しているサービスを提供することを考えていく機能が市にあるということ。マネジメントしていくには、各団体、各部会にどのような資源があり、それをどのように有効活用していくかということが求められるが、市では残念ながら資源をどのように生かし、どのように事業を進めていっていただくか、細部までマネジメントが難しい。
- 市民会議は三師会をはじめ、健康づくりリーダー、栄養士会など、さまざまなプロフェッションの方に所属していただいているので、このような資源を有効に活用するためには市もサポートはできるが、やはりボトムアップの形で、市民会議さんからあがってこない、皆さんのモチベーションの問題も含めて、難しいと思う。



岡崎げんき館の問題提起④ 事業の問題

- 「初めに予算ありき」だと皆さんの事業に制約がでてくる。モチベーションや「発展性」の問題も生じる。市費管理だと難しい面もあると考えている。

岡崎市としては、市民会議を進めることを上手に協働にもっていくことにより、新たな行政課題の対応ができるなどのメリットがあります。ぜひ、これからもさらに市民会議が発展していくように私どもも思っておりますので、今日のワークショップを有意義なものにしましょう！

契約の種類解説

●委託

本来、市が行う事業をお願いするもの。委託では仕様書を作り、それに関して委託料を支払う。

●特命随契

委託契約のひとつ。発注者側の都合により、特定事業者を指定して契約締結する方式で、『業者指定契約』とも言う。発注者側からみて競争入札に適さない案件や、他に代替性がない等の理由があるときに、特命随契による契約が可能となる。委託料は、上記委託の考え方と基本的に同一である。

●負担金

委託に非常に似ていて、市の事業に似通ったものを行っていて、その一部を市が負担するもの。どういう負担割合にするのかを市と協議する。その割合について協議書を作り、市が負担する形を負担金と呼ぶ。

●補助金

500万円の総事業費のうち1/2の250万円の補助を出すというもの。補助金は未来永劫続くものではなく、4～5年経つと独立してもらうため基本的になくなる。

お互いの活動についてもっとよく知ろう

市民会議を構成する団体に対する質問やアドバイスを書き出し、
それについて各部会からコメントをしてもらいました。

1) 保健サポート部会

- 医療のお話と栄養のお話のコラボで何か事業ができないでしょうか。
- ウォーキングを保健サポート部会と一緒に出来たらと思う。例えば検診の後にウォーキングをする。
- 集客はうまくいってますか。
- 三師会さんへの協力以来がなかなかできず残念!!どんな協力が得られるのでしょうか?
- どんな活動をされていて、今後の計画はありますか?協働できる事がいろいろあると思います。
- 栄養サポートへの要望は何かありますか?(栄養ステーションなど)



●●部会からのコメント●●

- ・ 依頼の出しやすい窓口を作りたいと思う。
- ・ 一般的には講演会や市民向けの講座を市民会議ということにとらわれずにいろいろとやっているが、その辺もうまく市民会議にも取り入れられてこれからやっていけたらと思う。



2) 運動サポート部会

- 10月のぶちで初めて運動さんより体操を教えていただく。どんな反応があるか楽しみ!
- ウォーキング会さんへ。定例会と市民会議事業の区別は?
- 1つ1つの事業に対して、とてもいいに進めていると思います。すごいですね!
- 連携が重要だと思うのですが、土日や夕方しか活動ができないので困っています。
- ウォーキング会さんへ。参加者の声として栄養・食事についての課題や問題点など、何かありますか?
- 集客はうまくいってますか?
- 参加費について、どの部会も無料ですか?
- 他の部会の人と協働で事業ができるようになってうれしい!
- 運動データの分析、医学データに基づいたプログラム作りを保健サポート部会などと協力して進めてほしい。



●●部会からのコメント●●

- ・ 例えば料理とか運動している間に、子どもさん達と子どもサポート部会の方が一緒に楽しく遊んで頂いたりとかという形で、いろんな部会間で連携しながら何か事業が出来たらいいかなと考えた。
- ・ 健康作り講座、地域ふれあいに関しては、参加の定員ぐらまで頑張って集めている。
- ・ 栄養サポート部会に栄養の指導をして頂きたいという意見もあるので、今後、栄養面も一緒にお話しをして頂けたらなと思う。
- ・ 定例会と市民会議事業の区別については、げんき館でやっているのが市民会議事業、東公園の方で行うのと月1回、例会として行っているのはウォーキング会の事業。

3) 栄養サポート部会

- 以前、小学生の親子料理教室を行った時に、「小学生向けの料理教室が少ない」と声がありました。そのような企画はできていますか？
- 最近の活動の中で人気のあったものはどんなものでしたか？
- 参加費について疑問？
- 協働で事業ができるようになってうれしいです。
- 簡単な食事やおやつ作りのレシピを④の開催会場におかせてもらうとママたちは便利！うれしいかも。
- 栄養サポート部会の方に栄養のお話をしていただけたらと思います。
- 栄養さんには、④の子ども部会との料理教室でお世話になっている利用者にも好評!!続けていただける?!



●●部会からのコメント●●

- ・ 平日は仕事を持っている人間ばかりなので他とのコラボも難しい。土日や休み、夕方、資料協力なら出来るのではないかな。
- ・ なるべくいろんな切り口で栄養ステーションをやろうと思っており、子どものプログラムもそのうちの1つとして考えている。
- ・ 小島さんの大豆は人気があった。
- ・ 参加費は1回500円だが、収支としては赤字だと思う。(実際1000円くらいはかかるのでは)



4) 子どもサポート部会

- 子どもサポート部会の対象年齢と内容を教えて下さい。
- 活動の中で今の子どもたちの「食」の問題で気になるようなことがありますか？
- 事業の予算のくみだてを知りたい。研修会等。
- スタッフを充実(数、内容)させるためには何が必要ですか？
- 幼児の食生活についての合同で行える事業ができないでしょうか。
- 参加人数は?スタッフは足りていますか？
- スタッフは足りていますか。
- 現在のスタッフで事業運営に支障はないですか？
- 毎年、会員が変わっていくわけですが、事業の継続していくご苦労はありますか。



●●部会からのコメント●●

- ・ 週1回で事業の回数が多いのでスタッフを集めることにはかなり苦労をしている。またスタッフの専門性や知識など支援する側の技量がすごく問われてくる。スタッフの知識を上げるために子ども専門の先生や保健所に協力してもらい、スタッフの研修を年5~6回して知識を得るようにしている。
- ・ 今年幼稚園、保育園に入られたお母さんがぶちのお手伝いをしたいと言って下さったり、会のおきも率先して手伝って下さったり、自分から動こうという気持ちで手伝って下さることが嬉しい。
- ・ 偏食の相談が多いので、メニューの紹介や作ってみましょうということをお母さんと共同でやれたらいい。
- ・ げんきクラブでは、年の近いお母さんが遊んでくれお母様方からも好評を得ている。学生さんで毎年入れ替わり大変だと思うが、げんきクラブはOG会が出来たり、縦の連携が出来ていいなと思っている。

5) 市民交流部会

- 市民交流部会はどのような活動をしているのですか？
- どんな事業をしていきたいか？
- 市民交流の方と一緒に、街の活性化の事業をやりたい。
- 市民交流部会さんの呼びかける先は根石学区が中心ですか？
- 地元商店街の皆さんの「げんき館」に対する評判、要望は？
- ”健康栄養弁当（仮称）”を製造できたら、販売できますか？
- げんき館ができて何か変化がありましたか？
- げんき館ができて買い物される方は増えましたか？
- 市民交流は職業が幅広いので、イベントのアシスタントを行っている。



●●部会からのコメント●●

- ・ この部会は多種多様な人が集まっていて、皆さんの意見を集めて市民会議の外からお手伝いをしようという部会。
- ・ 今の商店街は集客力がない。集客力をげんき館に求めても、車で来て車で帰るので外には出て来ないのが現実。
- ・ 商店街の人は根石学区の行事に多く参加しているので、どうしてもそれ以外の地区の方との連携が取れていない。
- ・ げんき館の地元の評判はすごく良い。
- ・ 商店街としては、ここに携わっていくことによって、市からの商店街に対する働きかけと結びつけてやっていきたいと思っている。
- ・ ”健康栄養弁当（仮称）”の販売は日曜休みの店なのでちょっと難しい。
- ・ げんき館の駐車場を利用しての夏祭りを昨年からやっており、皆さんに喜んでもらっている。地元の小中学生以上の子ども達がげんき館を利用しているので、学区の活性化になっているのではないかと。

6) その他

- お互いの部会の内容がまだよくわかっていない。内部見学会もあってよいのでは？
- 他の団体が加入された場合、困りませんか！
- げんき館の事業と他で行っている事業のちがいがありますか？（事業の選択、将来性など）
- げんき館ならではの祭り「げんきまつり」四季それぞれでのにぎわいを創り出してほしい。
- 他の部との連携ができるとよいと思います。
- 月に何日ですか。週1回？月1回？全体グループ。
- 全体。予算削減なのに統一していない。
- 団体によって無料、有料の事業の違い？
- 駐車場は足りませんが、どうにかなるのですか。
- 運営委員会では各部会の報告のみ。SPCとの連絡。
- 本来は行政がやるべき事業（プログラム）をどんどん請け負っていく意欲はありますか？
- 誰かがNPOになったときの事務局をやれないでしょうか。
- 新たな企画を求められると思いますが、現状、他部会が行っている事業を全て把握できず、コラボ案が生まれにくいのでは？
- 写真の目を通し、各部会がんばっている。しかし全体のつながりが見えない。（横のつながり）
- 皆さん、市への注文は？
- 皆さんは各部会間の交流とか、ありますか？
- 皆さん、思ったとおりの事業ができていますか？

駐車場は今220台あるが、本当に足りない。今日も午前中、公用車を隣の歯科総合センターに動かしたが、それで何とかやりくりをしているという状況。いずれこの問題は考えなくてはいけないと思っている。（宮本）

市民会議事務局の運営方法を考えよう

市民会議事務局の運営方法をどのようにすべきか、グループで検討しました。

Aグループ <事務局の運営方式 II タイプ>

①関係図

②事務局の役割

- ・事業計画
- ・予算案
- ・事業（プログラム）間の調整
会場、時間、予算

③事務局人材推薦リスト

- ・実務経験者（市職員or民間退職者）
- ・事務を専門にできる人は?!

④その他の運営方法についての意見

- ・一般から多くの団体(事業)を受け入れる事ができるか?!



発表から

- 事務を週1～2日、張り付いてやって頂ける人がいないと進まない。定年を迎えるような実務経験者に声かけをして迎えたい。
- 市民会議として、行政の仕事を受託するに値する事業をし、公表していく必要がある。
- NPOにすると入りたい人を拒めないで、それをどう交通整理するかという問題がある。またNPOにNPO団体が入ることは出来ないのでは個人として入らざるを得ない。そうすると団体のつながりが非常に複雑になるので、NPOにすることは難しいと思う。

Bグループ <事務局の運営方式 II 事務局、総務部会タイプ>

①関係図

②事務局の役割

- ・会議のコーディネーター
- ・部会間の調整、事業の調整

③事務局人材推薦リスト

- ・市民会議メンバーの中で

④その他の運営方法についての意見

- ・委託や補助金等での運営になると、今より予算がふえるのでは？収益事業が必要。
- ・各事業の内容を話し合っ理解して、予算案を決める。
- ・予算について、割り振り、事業内容によって違う。

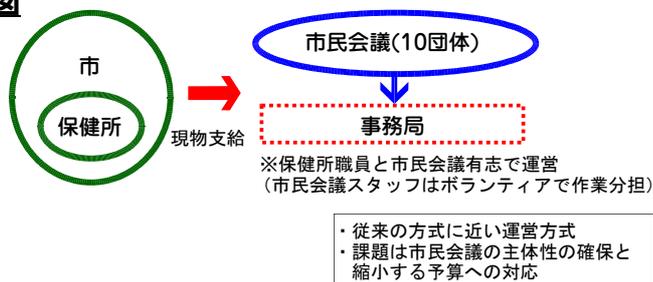


発表から

- どうしてこのままの体制ではいけないのかという話を長くしてしまった。今も事務局はあるが、なるべくなら自分達で出来ることは自分達でやり、事務局の役割は全体的な会議のコーディネーターと部会間の調整とか事業の調整をする。
- 事務局の人材推薦はなかったが、市民会議のことをよく知っている、メンバーの中に誰か能力に長けた方がいればと思う。

Cグループ <事務局の運営方式 Iタイプ>

①関係図



②事務局の役割

- ・各会議、部会の開催連絡
- ・事業の案内
- ・広報
- ・会員名簿

③事務局人材推薦リスト

- ・保健所職員と
- ・市民交流部会 倉橋さん
- ・広報 佐々木さん
- ・栄養 森田さん
- ・退職後の職員 足立さん

④その他の運営方法についての意見

- ・人件費を抑える（全体）
- ・げんき館事業はモデル事業で、各地域で発展させる
- ・げんき館での事業はモデル事業。地域に出たの活動へ移行する。

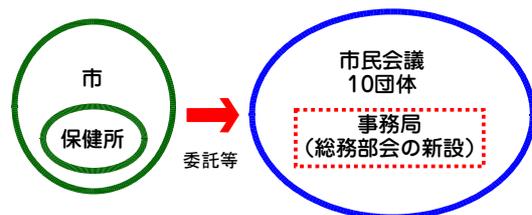


発表から

- 少し消極的な考え方で、現行タイプIの保健所職員と市民会議有志で運営していく事務局を考えた。
- 全体的に人件費を抑えていなくてはならない。
- げんき館はモデル事業として各地域で発展させていく、各地域に出て活動し移行していく形で広げていったらどうかという意見があった。

Dグループ <事務局の運営方式 総務部会方式タイプ>

①関係図



②事務局の役割

- ・予算管理
- ・年間スケジュール
- ・市との調整
- ・事業の計画、立案
- ・備品の購入
- ・会議のコーディネート
- ・広報

③事務局人材推薦リスト

- ・市民会議についてよくごぞんじの方
- ・経理にたけた方
- ・各部会からの推薦
- ・各団体から推薦

④その他の運営方法についての意見

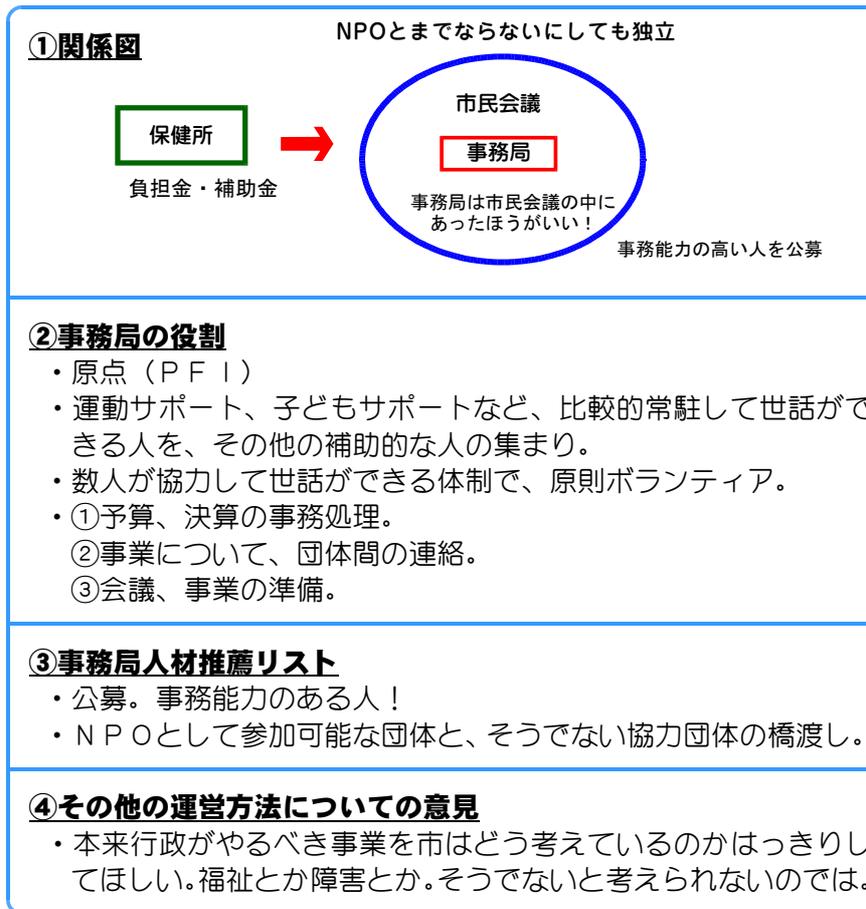
- ・NPOをめざす？



発表から

- 事務局は市民会議についてよくご存知の方で、経理に長けた、できればこの近くで出来る方。この辺は市の職員でロールの方が多く、人材はたくさんおるのでそういう方を探せば受けて頂けるのでは。
- NPOを目指すかは、組織の上からのつながっていると下の方はやはり個人になり、今の活動を個人でやるのは大変なのでNPOを目指すのは大変という話だった。

Eグループ <事務局の運営方式 〓よりちょっと独立?タイプ>



発表から

- NPO法人にすると、今考えているものよりも事務局の負担が大変で、相当のパワーがないと出来ない。NPO法人まではちょっと難しいのではないかな。
- 事務的なことは自分達でやれたらいい。
- 常駐者がいて、ここに連絡をすれば全ての団体に連絡をしてもらえるような事務局があれば一番いい。事務能力がないと素人では出来ないので事務能力に長けた方に来て頂きたい。

感想カード

最後に、今日の井戸端会議に参加した感想を、感想カードに書いていただきました。

～今日の感想～

- 今回、こういう井戸端会議に参加して、いい勉強になったと思いますが、むつかしかったと言うのが感想です。次回は少し考えてから参加します。
- 最初はワークショップってどんなことをやるのか分からない面もありました。でも大人の方々の意見を聞き、市民会議の運営方法があることを知りました。退職後の方の協力を得るのは、市民の目から見てもよい案だと思います。
- 色々考える機会が持てて大変よかったです。今後、市民会議としてどのような方向性を持つことが必要かつ重要と思いました。
- 他の部会の方のお話が聞いてよかったです。ありがとうございました。話し合いの内容が事前にわかれば、個人的な意見ではなく、会としての意見が出せると思いました。
- 大変有意義なワークショップであったかと思う。ただ事前に会議内容が伝わってなかったこともあり、グループ内での活発な意見交換ができなかった面があった。今後のワークショップでは事前に連絡し、時間内で意見集約がなされたらと思う。
- 若宮町周辺の人材パワーが期待されているが、全市的な期待や周知につながればもっとエネルギーが高まるのかなあ。

～話し合いを継続して行きたい～

- なかなか意見になるような考えが出てこなかったけれど、伊藤先生のお力でいろんな話がきけてよかった。このような話し合いを重ねて、方向を見つけていけたら素晴らしいと思います。
- 第1回井戸端会議に参加して、皆さん（各部会）の意見や活動内容が少しだけ見えたような気がします。今後の方向性については、まだ自分のなかで消化できず、積極的な意見が出せませんでした。次回の井戸端会議は色々な所へ移動して、もっと他の方の意見も聞いてみたいと思います。
- 目標に向かい進むよう願う。
- 小グループでの話し合いを行い、より良い意見が出しやすかったと思いました。難しいテーマですが、継続していかなければならないと思います。ありがとうございました。
- ”げんき館”が開館する前は、市民会議のあり方について相当議論したが、その後、話し合う機会が無かったので、大変良かった。何度も話し合いの場を作れると良いが…。
- このような会議（いどばた）を考えられた事は良いと思いました。次回をたのしみにしています。
- 久しぶりに市民会議の方向性について話し合いができたと思います。市民の自主的な活動にするために、これからの会議で具体的にしていかないと。
- 私達市民会議も、以前にあった理想に向かって行く事は大事で、この様な会議は良かったと思います。又これからもやって頂きたい。
- 市の予算がきびしい中、どのタイプになっても事業の存続、発展ができるかどうか不安です。市の事業として必要な事業は残っていける形になるといいと思います。はたしてその必要性は誰が認め、決定されるのか?!市民会議の中でも十分に話し合うことができるだろうか…。まとめる事務局は大変だなあと感じます。

～有意義な会議だった～

- 市民会議のメンバーとして何ができるのか考えてみるものの、実際は自分の部会の事業への協力のみで終わっています。他の部会とのつながりをさらに深めて、市民会議の特徴を出せる様にすることが、今、重要な気がしました。今日の会議が他部会と交流を深める第1歩となって有意義な時間でした。
- これまでにない手法でのワークショップの開催。非常に有意義だったと思います。マンネリ化しつつある市民会議ですが、今後の運営面でかなり刺激となったことと思います。これからの自立を含め、このような話し合いが数多くできたらと思います。
- 今まで問題だと思っていた事をすっきりと形にしてもらえて、私の中でよく整理できてよかったです。これからあんまりふれたくない、ビミョーな問題がでてくると思うのですが。がんばりま〜す。
- ワークショップに初めて参加して、皆さんのお話、さんこうになりました。
- 結論は出ないにしても、考えをすり合わせる場所ができて大変良かったと思います。すこしずつイメージができて、まとまりが出てくる事に期待が持てると感じました。
- 今後の運営会議とは違い、色々な意見が出しやすい環境でとても有意義な会議でした！少しずつ前進できそうな感じがしました。
- 充実したワークショップでした。結論としてタイプIIが理想的でよいと思います。市民会議の組織はくずせないと思います。市民会議として向上する努力が必要です。どうもありがとうございます。

～市から～

- NPOがみんなの中でトラウマになっているのがわかった。これからは第2案をもとに、市としても何らかの方策を考えていきたいと思いました。

